

テーマ：観光（実践校）

根室管内 中標津町立計根別学園

■本実践のポイント（概要）

ふるさとに対する興味・関心を高め、愛着や誇りを育むため、9年間の学びの連続性を踏まえた「生活科・総合的な学習の時間」の指導計画を基に、地域の教育資源の活用や他教科等との関連を図りながら、ふるさとのよさを再発見し、ふるさと活性化策を提案するなどの探究的な学習活動を展開しました。

■ふるさと教育の実践内容（第9学年「ふるさと活性化プロジェクト」）

①取組の様子

(1) 課題の設定

生徒の学習経験やその経験から得られた成果を生かしながら、地域についてウェビングでイメージを広げたり、地域産業の活性化に取り組む農業高校の生徒と「ふるさとのよさ」について話し合いをしたりする中で、「自分たちも地域の活性化を目指した事業を企画したい」という課題意識を高め、「修学旅行先でふるさとのよさをPRしよう（「計根別アピール」）」という探究課題を設定しました。

(2) 情報の収集

課題解決に向けて、国語科との関連を図り、地域住民にインタビューしたり、社会科との関連を図り、文献等の資料を活用したりするなど、必要な情報を収集して、ふるさとをより深く知るための調査活動を行いました。また、課題意識が高まるよう、地域おこし協力隊を外部講師として招聘し、他の地域との比較について講話をしていただいたことにより地域のよさや価値を再認識しました。

(3) 整理・分析

収集した情報を観光と関連付けることで目的意識や相手意識を明確にさせ、さらに「今の自分にできること」を視点に設けたことで生徒は収集した情報を選択し、具体的なPR方法を見付けることができました。修学旅行先でのPR活動は中止となりましたが、校内での発表で、地域おこし協力隊から助言や激励を受けました。

(4) まとめ・表現

これまでの学習経験やPR活動を通して考えたことを生かしなが、地域活性化のために自分たちが参画してできることを考え、今後、自分が地域とどのように関わり、どのように生きていくのかをまとめ、「ふるさと活性化卒論発表会」で異学年の生徒や保護者などに分かりやすく伝えたり、FMラジオ局で計根別の魅力をPRする活動を行ったりしました。



【ふるさと活性化卒論発表会の様子】

②生徒の感想等

- ・活性化を目指すには、ふるさとのよさを生かした「自分なりの発想」と「ふるさとを思う熱い気持ち」が大切だと感じました。
- ・自分のふるさとと初めて真剣に向き合うことができました。



【FMラジオ局でPR活動をする様子】

■取組の成果（○）と課題（●）

- アンケートでは、「自分の住んでいる地域の観光や産業についてもっと調べたいと思う」と回答した生徒の割合が43%から62%に、「北海道や自分たちの住んでいる地域に、誇りや愛情をもっている」と回答した生徒の割合が64%から92%に増加するなど、ふるさとに対する興味・関心を高め、愛着や誇りを育むことができました。
- ふるさと活性化策を提案する活動では、課題を自分事として捉え発信する力が不十分だったことから、学習の成果が地域の課題解決に繋がるなどの学びの実感を得られるようにする必要があります。